

横浜ゴムグループの概要

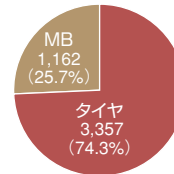
横浜ゴムの概要

社名	横浜ゴム株式会社
設立	1917年10月13日
本社	〒105-8685 東京都港区新橋5丁目36番11号
工場	平塚製造所、三重工場、三島工場、新城工場、尾道工場、茨城工場、平塚東工場、長野工場
資本金	389億9百万円
連結売上高	4,519億円(2005年度)
連結従業員数	14,617人(2006年3月末)

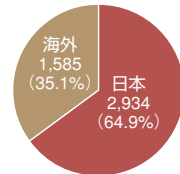
横浜ゴムグループ

横浜ゴムグループは、横浜ゴムと子会社185社、関連会社57社から構成され、タイヤ及びMB事業を世界各地で展開しています。主な事業内容とグループ会社は下表の通りです。

部門別売上高



地域別売上高



(2005年度)

単位:億円

横浜ゴムグループ会社

	地域	製造販売会社	販売会社
タイヤ	国内	横浜ゴム ヨコハマタイヤ東日本リトレッド 山陽リトレッド	ヨコハマタイヤ東京販売、 ヨコハマタイヤ近畿販売など170社
	海外	ヨコハマタイヤ コーポレーション GTYタイヤカンパニー ヨコハマタイヤ フィリピン ヨコハマタイヤ ベトナム カンパニー 杭州横浜輪胎 ヨコハマタイヤ マニュファクチャリング(タイ)	ヨコハマタイヤ(カナダ)など23社
MB 工業品	国内	横浜ゴム	横浜ゴムMBEなど8社 プロギア
	海外	サスラバーカンパニー YHアメリカ 協機工業 ヨコハマラバー(タイランド)カンパニーなど4社	
航空部品	国内	横浜ゴム 高崎金属など4社	
	海外		ヨコハマ エアロスペース アメリカ
その他			ハマゴムエイコム、浜ゴム不動産など20社

主要製品

タイヤ	工業品	航空部品	その他
乗用車用、トラック・バス用、小型トラック用、建設車両用、産業車両用、航空機用などの各種タイヤ・チューブ、アルミホイール、自動車関連用品	コンベヤベルト、ゴム板、各種ホース、ゴムライニング、防眩材、オイルフェンス、マリンホース、型物、空気バネ、ハイウェイジョイント、橋梁用ゴム支承、防水材、ビル用免震積層ゴム、止水材、防音・防振商品、接着剤、シーリング材、スポーツ用品	航空機用燃料タンク、シール、音響材、プリプレグ、民間航空機用化粧室ユニット、飲料水タンク、各種ハニカム商品、金属ダクト、オイルタンク、断熱材、バルブ、継手、シーリングコンパウンド、Vバンドカップリング、フレックスカップリング、電磁波シールド材	情報サービス処理、不動産賃貸など

2005年度連結決算の概要

■ 事業環境

2005年度の経済環境は、原油など素材価格の高騰による影響が懸念されましたが、米国では設備投資が拡大し、アジア諸国では景気回復も見られるなど総じて堅調に推移しました。国内経済は企業収益の改善により設備投資が増加し、雇用情勢の改善に支えられた個人消費も底堅く推移するなど、緩やかな回復基調で推移しました。

■ 経営成績

2005年度の連結決算は国内外における各種販売施策を展開した結果、売上高は過去最高の4,519億円(前期比7.7%増)となりました。また、原材料価格の高騰に対して各種コスト削減、収益改善など内部改善を進め、営業利益は219億円(同4.7%増)、経常利益は190億円(同11.1%増)となり、当期純利益は214億円(同89.4%増)と3年連続で最高益を更新しました。

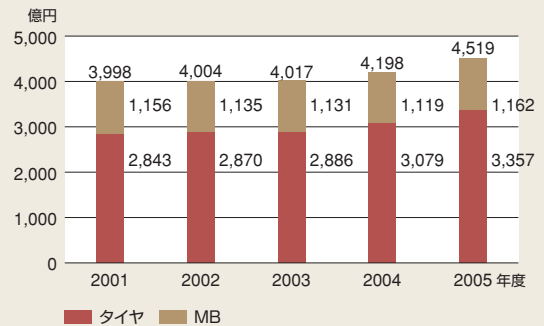
■ タイヤ事業

国内販売については大雪の影響でスノータイヤの販売が増加し、海外販売についても北米を中心に順調に推移し、売上高は3,357億円(前期比9.1%増)となりました。営業利益は、原材料価格高騰の影響を受け181億円(同0.4%減)となりました。

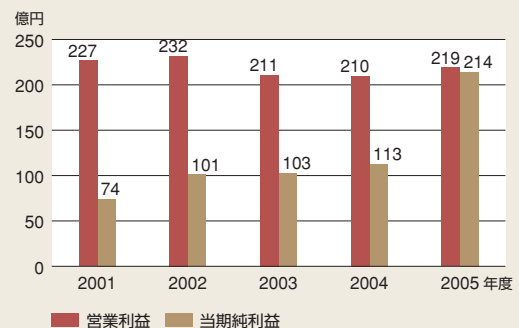
■ MB事業

ゴルフ用品はクラブ需要低迷の影響を受けて低調に推移しましたが、自動車ホース、高圧ホース及び各種シーリング材が売り上げを伸ばしました。その結果、売上高は1,162億円(前期比3.8%増)、営業利益は39億円(同41.9%増)となりました。

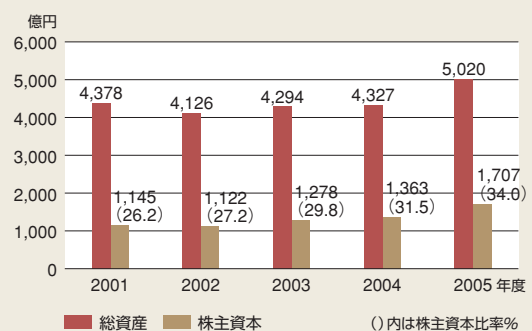
売上高の推移



営業利益・当期純利益の推移



総資産・株主資本の推移



設備投資・減価償却費の推移

